

# 市民連合

## ぐんないニュース

### 第 25 号

2025 年 9 月発行

発行 市民連合 ぐんない

共同代表 知見邦彦

森山正男

### 8/3 第 21 回 平和を願う朗読会 朗読ボランティア 如月の会 主催 大月市立図書館 共催

……………心に響け私たちの声……………

毎年 8 月、大月市で恒例の平和を願う朗読会が大月市立図書館会議室で 8/3、60 名の参加で開催、鳶木守館長からが次のような挨拶がされた。



「あけがた午前 2 時。B29 の無差別爆撃で火が火焰放射器のように、町まちを突き抜けてきた時、昌次たち一家はかねてからの申し合わせにより、太い一本のロープにすがった。

「如月の会の皆様には幼児への読み聞かせや朗読会などを通じ市民の文化向上に貢献していただき、感謝申し上げます。8 月は祈りの月とも言われますが、8 月 6 日には広島、9 日には長崎、15 日には戦没者を追悼し平和を祈念する式典などが今年も予定されております。戦後 80 年の節目に際し、先の大戦を経験した方が少なくなる中、後に続く世代がこの事実を風化させることなく、後世に語り継ぐことは大切なのではないかと思います。その意味からもこの朗読会は意義がある催しだと思えます。」

これは、逃げる際にチリジリになるのを防ぐ、隣組の“命綱”だった。階下のガラス屋の老人が火には強いと言って、しわだらけの手でロープの先端をつかんだ。トシ、母、昌次がその後につづいた。昌次の後ろは、もも子の一家で最後尾をもも子の父がおさえた。

5 つの朗読の中から、「ゆびきり」早乙女勝元著、朗読 天野いく子さんの一部を次に紹介します。

「いいかどんなことがあっても離れちゃいかんぞ、手を放しちゃあかんぞ」真紅の炎を照り返して赤鬼のように群がる B29 の下で、老人はおごそかに言った。鉄カブトの下に老人の目がキラッと光った。「助かる時も一緒、そして死ぬときもみんな一緒だ……」昌次はごく息を飲み込んだ。

死というものが、そんな近くまで迫っているのがヒシヒシと、身にしみて感じられた。「昌ちゃん」と、もも子が背中をこづいた。「どんなことがあっても絶対に離れちゃいかんよ！」老人の口調を繰り返して今度はもも子が言った。恐怖のせいかな、そのほほは青白く、えり首一面に鳥肌が浮いている。「よし！」昌次は強くかぶりを振った。2人は震える小指を合わせて、指切りを交わした。

両端に、男を配置した総ぜい9人は5mの命綱を固く固く握りしめた。「行くぞ！」老人の声を合図に一同は、長いこと住み慣れた路地の裏から、一匹のムカデのように動き出した。昌次は何度も振り返って、うらぶれた2階建ての、ハモニカ長屋を見た。

よろけて倒れそうな電柱、狭い空間をもつれる電信線、くさった柱の物干し台・・・それらが昌次の目の中にゆれた。さようなら、みんなさようなら！床下のハゲ猫よ、ドブの中のネズ公よ、みんな、さようなら！無事に生きているんだよ！

・・・・・・・・略・・・・・・・・

象のあだ名の大森のおばさんだった。太ったからだに、ふとんをゴボウまきにして、どういうわけか、何足もの下駄を、腰の周りにくくりつけていた。おばさんは、せきこんでたずねた。「昌ちゃんどこ。みんな生きてるか？」[うん] 昌次は大きくかぶりをふって、「川っぶちの壕に、かあちゃんとネエちゃんがいるんだ」

「ア、うちだ。家がある！」昌次は、ほとばしるようにさげんだ。はたして、そこにじぶんの家がふくまれているかどうかは、まだわからなかったが、やけあとのなかの黒いカワラをみつめて、昌次のからだは、しぜんと、まえのめりになった。

「どいた、どいた！」といきなり、ふとい声。声と同時に、前方からやってきた鉄カブトの男たちが、あらあらしく、昌次を横におしのけた。男たちは、鉄のパイプと、トタン板でつくられたタンカを、はこんできたのだった。その上を一目見て、昌次は目を見はった。息をのみこんだ。

脂肪で、ぎらぎら光った、まっくらこげの死体がのっている。その手が、ななめにのびて、虚空をつかんでいる。いわしをやくような、おそろしいにおい！「ああ・・・」昌次は、右手で、口のまわりをおおった。しばらくのあいだ、息もつけず、男たちのあるいてゆくを見送った。

死体は、大人だか、子どもだかもわからなかった。やけた木の幹のようだった。あるいは、昌次と同じ年ごろの少年かもしれない。少女かもしれない。ああ、だれだ？ いったい、だれがわるいんだ？ こんなおそろしいことをするやつは、どこにいるんだ？ おまえは、それでも人間なのか？ わなわたと唇をふるわせながら、昌次は、憑かれたもののように、道を歩いた。



## 7/27 郡内健康友の会総会で 市民連合ぐんないから訴え

### 「市民運動を活発に、野党共闘に結集、一緒にがんばりましょう」

7/27、郡内健康友の会の25年度総会がマイホームさるはしで開催、当会から知見代表が出席、連帯の挨拶と市民連合ぐんないからの次の訴えをおこなった。

参議院選挙の結果は、自公政権に、衆議院選挙、都議会選挙に続き国民の厳しい審判がくだった。市民連合は共闘の維持拡大を要請し、32の一人区のうち、17の選挙区で「野党共闘」が実現、自民を14勝18敗まで追い詰める成果をあげた。

しかし、これは、かならずしも立憲勢力の前進を意味せず、社会の不安の矛先をナショナリズム、排外主義へ向かわせる動きが急拡大した。これらの動きはファシズムと戦争に結びつく危険な動きであり、今後、本格的に対峙していかなければならない。

市民連合ぐんないは2023年9月に設立、市民連合の共通政策の実現をめざし郡内地域、50人の会員で市民運動を活発にし、野党共闘に結集する活動を行ってきた。富士山に鉄道敷設する問題では、いち早く富士吉田で講演会を実施、設置反対の世論形成につながった。

“郡内健康友の会とは”

公式には2004年10月設立だが、2000年ごろから診療所建設に向けて活動開始。会員数は2025年3月末現在836世帯。



戦争準備を進める北富士演習場の問題を重視し、学習会や現地視察会などを取り組んできた。

米軍と自衛隊が訓練する横田基地から北富士に向かうヘリコプターやオスプレイが猿橋町上空を飛行し騒音をまき散らしている。北富士演習場の訓練中に自衛隊員の死亡や火災の発生等が発生した。富士山の登山道で自衛隊員の登山訓練もおこなわれている。

米軍（在沖米海兵隊）による実弾射撃訓練および陸上自衛隊と米軍の共同訓練（オリエント・シールド）が10月から実施予定となっている。

10年前、大月・都留・上野原の九条の会主催で、安保法制に反対する集会が大月市民会館に開かれ200名が参加、大月駅までデモ行進をおこなった。こういうとりくみを、また一緒にやりませんか？ 市民連合ぐんないと一緒に、大軍拡に反対し、病院・医療・介護を守る取り組みも進めましょう。

**被爆 80 周年 原水爆禁止世界大会 広島大会参加**  
**上野原から 2 名の青年が参加報告 8/17 もみじホール**

上野原市から、2 人の青年が原水爆禁止世界大会に参加し、その報告会が上野原市もみじホールで、8/17 に開催された。主催は「原爆と人間」パネル展実行委員会。村上上野原市長と小澤教育長が参加され、市長から次のような挨拶があった。

「上野原から若者二人が世界大会に参加されたのは大変うれしい。上野原市は非核宣言都市になっている。心配なのは、先の参議院選挙で核武装すべきとの発言が国会議員からあったが、許されないことだ。若者の平和への動きをどんどん大きくしてほしい。」

小澤教育長は「戦争の恐ろしさ、悲惨さを改めて思う。長崎での被爆体験を伝承している大学 4 年生の女性は、中学生の時からかかわっており、最近は小学生もグループに参加してきている」と話された。

橋本 真さん（東京土建山梨事務所）報告

山梨県から 28 名が参加した。被爆者の方の被爆体験をうかがった。1 名の方は胎内被爆で、被爆者二世は初めて聞く話で衝撃的だった。原爆ドームでは実物を見て、これまでネット等で知っていたのとは違う、身に染みて感じるものがあった。原爆



ドームのまわりに、高いビルがあったが違和感があった。広島の人々は原爆ドームの周辺に高いビルは不釣り合いと思っていた。

平和記念会館の写真の中に、「助けて水をください」というタイトルの写真があって、涙をおさえることができなかった。高校生が被爆者から話を聞いて描いた絵はとてもリアルに迫ってきた。

分科会では被爆者援護活動に出席、ソーシャルワーカーとの連携しながら、胎内被爆された方、被爆二世の方、放射能の影響が何年もたってから表れた方等の被爆者手帳の申請等の話を聞いた。放射能の恐ろしさを改めて思った。

生々しいたくさん話を聞いて、見て心が揺さぶられた。二度と同じ苦しみを繰り返さない、とのメッセージを強く感じ、今後の平和への活動の一歩に、と思った。

山崎一真さん（大学 1 年生）報告

被爆 80 周年という節目の年の大会に参加できたことは、私にとって大きな意味を持ちました。広島市全体が被爆の記憶を残し伝承することを大切にしてきたことが伝わってきました。

広島うたごえの方々の唄で圧倒されました。ステージがいつまでも揺れてる感じでした。小学5年生の「私の願い」という歌もすばらしく、広島ってすごいな！と思いました。ロビーの版画が印象的でした。

原爆ドームは何回も写真で見えていましたが、やはり本物の迫力を感じ、写真をとりました。広島に原爆が落とされてからの日数と最後の核実験の日を表示している「地球平和監視時計」というものがありました。原爆投下直後と7時間後の写真も展示されていました。

6日の記念集会は8時からで、私は10分前には着きましたが、人がいっぱいでした。8時15分近くになると、急に静まりかえり、立ち上がり手を合わせ黙とうしました。



うたに伝える力があることが様々に語られました。ウィシャル オーバーカムが広く歌われてきたが、“Future”をこれからは歌おうとの訴えもありました。

私は被爆の伝承と文化（うた）の関心に興味がありました。何故広島の方々は歌をうたうのか、被爆の伝承にどんな関係があるのか？を考えたくて分科会：被爆の伝承と文化（歌）の分科会に参加しました。

この3日間、たくさんの方から若者が被爆を伝承することの必要性、責任が語られました。私の責任は何だろうと考え始めました。

### 2025 平和を願う 山梨戦争展

「戦争・戦後体験を踏まえて、今、思うこと」 佐藤善子さん語る

「2025 平和を願う 山梨戦争展」が8/9～11に県立図書館で開催され、11日にはトークセッションがあり、佐藤善子さんが「戦争・戦後体験を踏まえて、今、思うこと」と題して体験と想いを次のように語った。

父親は職業軍人だったので、父から戦争体験を聞いたかったので何回も頼んだが、話してくれず、「あんな、くだらない！」と声を荒げるだけだった。母親に「なぜ、戦争は嫌！と言えなかったの？」と聞いた

が、彼女も職業軍人の妻として生きてきた人だった。「あなたは、平和な世の中にしていきなさい」と言われた。

私は、この母の言葉が善子さんをずっと支え、生きるエネルギーにしてきたのではないかと思う。2016年の「望郷の鐘」から「日本の青空」、「沖縄スパイ戦史」、「歌ものがたり」、「戦雲」等ずっと上映活動を続けている。私たち実行委員は善子さんの平和への熱い思いと行動力に引っ張られ続けている。（知見時江）

## 市民連合 ぐんない年次総会開催案内

下記の通り市民連合ぐんない年次総会を開催しますので、ご出席をお願いいたします。

### 記

1. 開催日時 9月15日(月)午後2時から
2. 開催場所 大月市役所猿橋出張所 2階会議室  
住所：大月市猿橋町猿橋 81 電話：0554-22-0542

尚、欠席される場合は、すべての議決を議長に一任する内容の委任状をFax(0554-20-1002宛て)でお送りください。よろしくお願いいたします。

以上

**平和を願う市民のつどい**  
いとう ちひろ  
**伊藤千尋さん講演会**

**演題 私たちが創る平和の道～世界の戦争の中で**

**2025年  
9月20日(土)**  
開場13:00 開演13:30～  
**大月市民会館  
3F講堂**  
参加費・資料代 500円  
高校生無料



●ジャーナリスト。1949年、山口県生まれ。東京大学法学部卒業。1974年、朝日新聞に入社。サンパウロ支局長、ハルセロナ支局長、ロサンゼルス支局長などを歴任、40年にわたり主に国際報道の分野で取材を続けた。  
●2014年に朝日新聞退職後も、フリーのジャーナリストとして各国の取材を続け、精力的に執筆と講演を行っている。「コスタリカ平和の会」共同代表、「九条の会」世話人。



県内初の「9条の碑」除幕式  
北杜市 右側 伊藤千尋さん

「非戦の誓い」 著者 伊藤千尋 2022年4月刊行  
戦争をなくす力を何に求めるべきか？ ロシアのウクライナ侵攻で分かった憲法9条の歴史的意義。武力で戦争は防げない。各地の9条の碑をめぐる、建てた人々の思いを一つずつ知ることで、私たちは9条の精神を改めて認識し、次代を目指すエネルギーにできます。9条のたびに、いざ出かけましょう。(アマゾン書評より)



**非戦の誓い**  
憲法9条の意義をめぐって  
伊藤千尋

問合せ先 090-1537-4240(佐藤) 090-1431-9273(和田) 090-2638-8158(酒井)  
主催「伊藤千尋さんの話を聞こう」実行委員会  
後援 大月・上野原・都留3市の九条の会 協力 杉本新聞店